

I 実践

1 研究テーマ

自他のよさを認め合い、思いやりの心と感謝の心をもって活動する児童の育成

(1) 主題設定の理由

本校の教育目標は「感謝の心を大切にし、より高い目標に向かって自ら進んで挑戦する、たくましい久慈っ子を育成する」であり、目指す児童像は、「健康で元気いっぱいの子」「友だちと仲良く活動できる子」「自ら考え学び続ける子」である。これらを受け、本校の人権教育の目標を「自他を大切にし、思いやりの心と助け合いの心をもって活動する子どもの育成」「自ら進んで学習し、物事についての正しい判断と行動ができる子どもの育成」「互いに認め合い、助け合って人のために尽くすことができる子どもの育成」としている。本校の児童は、明るく素直で穏やかである。しかし、互いを認め合い、高め合おうとする意識がまだ低く、積極的に他者とのかかわり合おうとする態度もあまりみられない。そこで、心に響く交流や体験活動を通して、一人一人の良さに気付き、自他の良さを認め合い、思いやりの心と感謝の心をもって活動する児童の育成を目指し、本主題を設定した。

(2) 研究の内容

ア 教育活動全体を通した人権教育の推進

イ ボランティア等の体験学習を重視した指導の充実

2 実践内容

(1) 教育活動全体を通した人権教育の推進

ア 中学校・高校やPTAと連携したあいさつ運動

本校では、毎朝けやき委員会の児童と教職員が昇降口の近くに立ち、あいさつ運動をしている。また、毎月マナーアップ週間を取り入れ、各学年の児童が順番にあいさつ運動に参加していくことで、あいさつの大切さを感じることができるようになっている。さらに、近隣の中学校・高校の生徒やPTAの方々と連携を取りながらあいさつ運動を展開しているため、たくさんの人々とかかわり合って生活していることとあいさつの大切さを実感していると考えられる。

イ サンキュー週間の実施

サンキュー週間とは、毎月3～9日の間は進んで「ありがとう」を言う機会にしようという試みである。学校のマスコットキャラクターである「けやっきー」と計画委員会が中心となり、いろいろな人に感謝の気持ちをもって接することを全校児童に呼びかけている。下校時には、5回以上「ありがとう」と言えた児童は、学年の廊下に掲示してある「けやっきーボード」にシールを貼って一日を振り返っている。また、シールの数が学年で50個に達すると「ありがとうの花」が1つ咲き、全校で取り組んでいる「ありがとうの虹」(写真1)に掲示されていくようになっている。

ウ 校内人権学習週間の実施

学期ごとに校内人権学習週間を設け、思いやりと感謝の心を基礎とした人権教育の精神の涵養を図った。1学期は、視聴覚教材を使った人権学習を行った。各ブロックごとの人権教育目標に合わせて教材を選び、視聴前と視聴後に話し合いの時間を設け、ワークシートに振り返りを書かせた。2学期は、「人権メッセージ」(写真2)や標語、ポスター、習字などの人権作品への応募を積極的に呼び掛けた。特に、人権メッセージは夏休みに家庭に持ち帰って家族と一緒に考えることで、保護者への啓発も図った。3学期は、ナイスハート週間を実施し、友達の良いところを見つけ、友達と仲良く生活することの楽しさや喜びを見直させるだけでなく、自分の学校生活を改めて振り返り、物事についての正しい判断や礼儀正しい行動について考える機会を設けた。

エ 道徳教育の充実

各学年とも目指す児童像に向けて、道徳の時間と他教科・領域との関連を図って授業実践を行ってきた。本年度は「こころのけやき」(写真3)を各学級に掲示し、学習した教材名と価値、児童の振り返りカードを蓄積した。また、低学年では「ふわふわ言葉やちくちく言葉」、「ライフスキル教育プログラム」の実施、中・高学年ではソーシャルトレーニングを取り入れ、友達への言葉がけや接し方などをロールプレイした。また、高学年では、人権に関するいろいろな課題について学習する機会を設け、知的学習面でも人権教育を推進した。

オ 「いじめストップ！絆づくりプロジェクト」への参加
久慈中学校が中心となり、同中学校区の東小沢小学校とも連携し、いじめ撲滅をねらったプロジェクトを推進した。中学生と一緒にあいさつ運動をしたり、「心のバトン」や「絆旗」の受け渡しをしたりして、心の絆を深め合った。また、12月には3校合同のフォーラムを開催し、これまでの取り組みを総括するとともに、3校の児童・生徒が、いじめをなくし、さらに絆を深めるにはどうすればよいかをグループで話し合い、発表し合った。



(2) ボランティア等の体験学習を重視した指導の充実

ア 異学年集団の交流

毎週木曜日に「ゆうゆうタイム」として学級遊びの時間を設定している。月一回程度兄弟学級で遊んだり活動したりする日を設け、外遊びや読み聞かせ、縄跳びの練習、清掃活動などを行っている。

イ 地域の方との交流

1・3年生を中心として、地域の高齢者の方々と触れ合う機会を設定している。昔遊びを教わったり、交流センターを訪問して一緒に活動したりして有意義な時間を過ごした。また、昨年度に引き続き「久慈小文化体験交流会」を開催し、地域のボランティアの方々からいろいろなことを教わる体験学習を行った。学校の教育活動以外で自分の興味のある活動に参加できる取り組みであり、様々な人々とかかわって楽しい交流ができた。

ウ 命の学習

低学年は一人一鉢栽培、各学級では卒業式に向けてプランターでの花の栽培をしている。また、各学級で金魚やメダカも飼育している。命を大切にする心を育てると同時に、他者への感謝の心を育てることに役立っている。また、外部講師を活用して、4年生で生命誕生についての親子学習会を開催したり、1年生の道徳で命について学習したりした。

3 成果

様々な教育活動全体を通して、児童はお互いを認めたり、助けたり、支え合ったりすることの大切さに気づき、実践することの意義を感じることができた。また、様々な人々と交流し合ったことで、いろいろな人々と触れ合う時の楽しさやどんなことに配慮すればよいのかということに気づき、自己肯定感や自己有用感を味わったりした。

II 今後の課題

人権教育は、学校の教育活動全体で行われていくものであるが、学習したことを日常生活や家庭・地域でも実践できるようにしていくことが大切である。一度だけの活動で終わることなく、繰り返し継続して取り組むことで、互いの信頼関係を構築し、深め、思いやりの心や感謝の心が育っていくと考える。今年度は、児童や教職員などの校内の研修を進めることができたが、地域や家庭への呼びかけを積極的にすることはできなかった。今後は、教職員の人権教育に対する共通認識をさらに図り、家庭や地域と連携しながら人権教育を進めていきたい。

III 人権コーナーの設置の様子



写真1：ありがとうの虹



写真2：人権メッセージ



写真3：こころのけやき

